

## 私の大学院受験経験

申遠

私は河南大学日本語学科の4年の時に、大学の交換留学生プロジェクトを通して日本の大正大学で一年間留学しました。その後、日本の大学院に進学したいと決めたので、東京の様々な日本語学校を検索、比較して、最後は大学院進学コースがある亜細亜友之会外語学院に入学することにしました。大学院進学コースで大学院入学試験の受験準備をし、国立埼玉大学文化科学研究科修士課程に合格でき、2014年4月から正式に大学院生になります。

最初は亜細亜友之会外語学院の厳しさにあまり慣れませんでした。亜細亜の厳しい規則のお蔭で、私の生活習慣も改めることができました。朝早く起きて午前の授業を受け、午後余った時間はずっと自習室で勉強していました。そのほか、亜細亜友之会外語学院においては礼儀作法も非常に重視されています。学校内では敬語を使用すること、誰とでもきちんと挨拶をすることなど厳しく注意されました。学校でつけた良い習慣と礼儀作法は、アルバイトの場でも普段日本人と接する場でもとても役に立っています。

院進クラスに入ったばかりの頃、大学院に進学したい気持ちだけは確かなものですが、研究計画書、教授と連絡を取るなどに関しては全く分かりませんでした。どうしたらよいのかも全く分かりませんでした。何も分からない私に先生方から様々なアドバイスを指導して頂きました。研究計画書もテーマの選びから文章の構成、文法の修正まで細かく指導して頂きました。私の研究計画書は完成するまで数十回修正を行ってきました。学校の先生は毎回毎回丁寧に添削してくださり、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。大学院に出願する時に、無事に研究計画書を提出できたのは本当に先生方のおかげだと思います。

先生と面接練習の予約を取って、一対一で大学院入学試験の面接の全ての流れを練習して頂きました。面接時の入室と退室の挨拶の仕方、面接でよく聞かれる質問、質問に答えられない時の対処の仕方などについて細かく指導して頂きました。

学校の先生のご指導はもちろん大切ですが、自分自身の努力も欠かせないと思います。私はまず自分の第一志望校と滑り止めの学校を決めました。その後、目標に向かっていつまで研究計画書を完成させるか、いつまで教授とコンタクトを取るかなど、具体的な計画を立てました。研究計画書を作成する際には、資料を調べに何度も国会図書館へ行きました。収集した研究計画書に使う資料をまとめたり、切り抜きしたり、自分の先行研究資料簿を作りました。研究計画作成の途中で、何か戸惑ったらすぐ先生と相談し、先生からアドバイスを頂くことが非常に大事だと思います。

最後に、亜細亜友之会外語学院の先生方に心から感謝を申し上げたいと思います。

2014年3月 東京